

櫛は三年 櫛は三月、浮かしておけば流される

けんど、堪えて忍ぶだけが女ですらうか。

櫛

原作 ■ 宮尾登美子

(第九回太宰治賞
中公文庫版筑摩書房刊)

監督 ■ 五社英雄

企画 日下部五朗
 奈村 協
 遠藤 武志
 脚本 高田宏治
 撮影 森田富士郎
 音楽 佐藤 勝
 演出 緒形 拳
 十朱幸代
 名取裕子
 石原真理子
 井上純一
 真行寺君枝
 白都真理
 島田正吾
 成田三樹夫
 田中隆三
 藤山直美
 鳥田紳助
 加納みゆき
 高橋かおり
 清水郁子
 坂 金造
 中島 葵
 片桐竜次
 宮川 珠季
 成瀬 正
 ハナ 肇
 左とん平
 園 佳也子
 草笛光子
 協力 大王製紙



土佐高知、女を売り買う
 女衞ぜげんの岩伍いわたに嫁いだ喜和
 の幾春秋。權かゐは三年、櫓ろ
 は三月という言葉に託し
 て、ひとは女に辛棒しんぼう忍苦
 を説くけれど…。夫の破乱
 子の破乱に耐える喜和の
 悲涙にみちた半生。



●解説

一昨年の大ヒット作「鬼龍院花子の生涯」に始まって、昨年の「陽暉楼」につづく、太宰治賞・直木賞受賞の現代女流人気作家・宮尾登美子と日本映画界注目目の鬼才・五社英雄の名コンビが三度びの顔合せで贈る待望の文芸感動巨篇。昭和六十年新春公開の話題作である。

高知の下町、十五の年に「女衞ぜげん（芸妓娼妓紹介業）」の夫・岩伍のもとに嫁いで、ひたむきに生きる女・喜和の幾春秋――。

昭和三十九年以来、九年余の歳月をかけて完成させた堂々九百枚の自伝的長篇小説「権」は、文字通り宮尾登美子入魂の傑作。

この作で第9回・太宰治賞を受賞、その繊細密な筆致で多くの読者を魅了しているロングセラー小説でもある。

今回、宮尾＝五社・3部作の一応の完結をみるこの映画は、大正初期から昭和十年代までの高知を舞台に、女衞の一家とそれに関わるさまざまな人間を描きながら、ヒロイン喜和の女として妻としての愛と悲しみの三十年をあますところなく浮き彫りにする。

喜和は――女の不幸をとり扱うような夫の稼業にどこかなじめない。夫の岩伍は稼ぎも右から左で家はいつも火の車、それに他に女をつくることもしばしば。岩伍が他の女に生ませた子を育てるといふ運命も腹立たしい。大貞楼の女主人が言うように、「女は耐え忍んでこそ女」なのだろうか。夫の波乱、子の波乱、大小さまざまな嵐にもみしだかれるような喜和の人生。人生の川の流れに漕ぎ出そうとすればするほど、流され押される喜和の悲運。

物語はこの喜和を中心に、女衞という特殊な世界をのぞきつつ、その夫、息子たち、養女、夫の愛人巴吉、女義太夫、染勇（芸妓）、土佐の顔役等々、多彩な人々の愛と憎しみの葛藤を以ってくりひろげられる。

出演陣は文字通り豪華多彩。女衞・岩伍にこのところ充実そのものの活躍を見せる実力派・緒形拳、その女房・喜和には、昨年の「魚影の群れ」（松竹）に次いで緒形とコンビを組むベテラン人気女優・十朱幸代がそれぞれ扮して、ドラマチックに男と女の火花を散らす。この二人を囲む助演陣は喜和の息子に若手の井上純一と田中隆三、岩伍を慕いつづける芸妓・染勇に「序の舞」の名取裕子、岩伍を愛す女義太夫・巴吉に「天国の駅」の真行寺君枝、その娘・綾子に「誘拐報道」の名子役・高橋かおり、岩伍に拾われてきた養女・菊に石原真理子、岩伍晩年の女・照に白都真理、大貞楼の女楼主に草苗光子、土地の有力者に島田正吾、岩伍に敵対する顔役にベテラン成田三樹夫。加えてハナ肇、左とん平、園佳也子、中島葵、島田紳助などそうそうたる顔ぶれがつづき、さらには今回、原作者・宮尾登美子が陽暉楼の女将として初の映画特別出演を果たしているのが特筆される。

監督は前記、五社英雄。「鬼龍院花子の生涯」「陽暉楼」「そして「北の螢」とめざましい活躍を示し、実力派ナンバーワン監督として注目される人。

なおスタッフは、企画の目下部五朗、奈村協、遠藤武志、脚本はこのところ宮尾＝五社作品をメインに手がけるベテラン・ライター高田宏治、撮影・森田富士郎、美術・西岡善信、音楽・佐藤勝というパワフルな仕事師がつづく。（東映京都撮影所作品・カラー）

'85新春第2弾! ●前売券好評発売中! 大人1,200円(当1,500円) 学生1,000円(当大学1,300円 日高校1,200円)

1月15日(祭) 東映系 大公開

熊本東映

街道パチンコ横
 セントラル会館2F
 ☎ 356-7393